

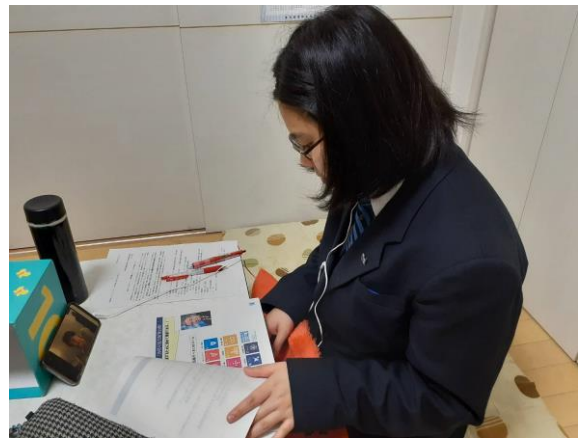
国連食料システムサミット2021 ビデオメッセージに関する オンライン授業

令和3年(2021年)9月、国連事務総長が主催する「国連食料システムサミット2021」が、アメリカのニューヨークで対面・オンラインで開催されます。サミットでは、2030年までのSDGs(*1)達成に向けた「行動の10年」の取組の一環として、生産から加工、流通、消費にいたる食料システム全体を持続可能なものにしていくために必要な、各関係者が取り組むべき具体的な行動が議論される予定です。

*1:SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2030年を達成年限とし、17のゴールから構成されています。

サミットの開催に向けて農林水産省では、「日本の農業・畜産・食品産業の将来を担う農業高等学校の生徒と対話を実施し、生徒自らができる行動(アクション)について考え、その結果をサミットへのメッセージとして提出して頂きたい。」と計画しています。

農業を学ぶ高校生がメッセージを策定するにあたり、4月30日(金)に農林水産省が「食料システムサミットの概要、農林水産省と高校生との意見交換等」に関するオンライン授業を実施し、本校を含む4校が授業を受けました。



自宅でオンライン授業を受ける生徒

農林水産省からの説明後、授業を受けた高校生から、「小学校・中学校・高校での食育の時間を増やすことはできないのか。」「国連食料システムサミットでは多くの考えが提案されると思うが一つの答えが出るのか。」「自分が住んでいる地域の竹林の荒廃が進んでいる。タケノコ等を食品に加工する取組を行っている。」などの質問、意見等があり、農林水産省の方に答えていただきました。

～ 授業を受けた本校生徒の感想 ～

「実際に農業に関わっている農林水産省の方々に質問をすることができて、とても良い経験になりました。特に食育の重要性を実感しました。今回教えていただいたSDGs等の課題について、今後も注目していきたいです。」

今後は「生産から消費にいたる食料システム全体を持続可能にしていくための課題、課題を解決するために必要な取組、自らが実施していく行動(アクション)」等についてメッセージを作成し、農林水産省に提出します。なお、作成したメッセージは農林水産省のホームページに掲載される予定です。